

平成 27 年度 入学式 式辞

昨夜からの雨が降り続く忘れがたい日となりました。校庭の脇には自然生えのスマイレの花が今年も咲きました。雨、風、太陽。自然の恵みの中で自分の居場所に凜と踏ん張り、逞しく美しく咲き誇っています。

本日、ここに第 61 回の入学式を挙行できますことを心から感謝いたします。2015 年 4 月 10 日金曜日。今日、新入生の皆さんは一生に一度の貴重な高校生活をスタートします。皆さんの中には、幼稚園の時から、この学校に来ることを決めていた人がいるそうですね。中には、半年前に本校入学を決断した人もいれば、1ヶ月前までは本校への入学を考えてもみなかった人もいることでしょう。人生とは「未知との遭遇」です。人生は自ら切り拓くものでありますが、同時に自分では支配できない不思議なものでもあります。だとすると皆さんは不安ですか？恐れますか？私はむしろ、「わからないだけに楽しみなこと」にして欲しいです。私にしか起こらないこと、私だからこそ神様に任された人生を受け取る。過去の心の痛みや傷、未来への不安や恐れで一步も踏み出せないままにいるより、ウルスラでどうぞ一度しかない毎瞬を受け取り、大いなる楽しい日々に変えて欲しいと願っています。

ウルスラでの普通科 3 年間、看護科 5 年間に何を期待して来られましたか？スポーツ？勉強？資格？友達？笑顔の自分？変えたい自分？すべて素敵な希望です。その目指すべき道に行きつくために何をするのか、すべきなのか、その答えは、すべて「皆さん自身の中」にあります。自分が動く、自分がもがく、自分が素直になる、自分が努力する。高校時代に、まだまだ知らない自分自身

と「未知との遭遇」をしなければ、大人には進めません。夢も見つかりません。中学時代とは心も体も変わりつつある自分を体感し、大人の扉を開くための大事な一歩にしてください。もし、皆さんの中にまだ、自分の気持ちと十分向き合えていない人がいたら、焦らずに、自分の心を整えながら忍耐強く自分の人生の方向性を見出して行ってください。

本校は、キリスト教カトリック系の学校です。他校と違うことは、「すべての人生の動機を愛に置いている」ことでしょう。自分の幸せをいつも世界のすべての人の幸せとつなげて考えることのできる人間の育成を目指しています。

「いじめは絶対許さない」という本校の固い決意も、自分の喜びと他の人の喜びがつながっていないければ、本物の喜びではないと考えているからです。

「弱い者の一人にしたことは、神にしたこと同じです」と聖書は教えています。思いやりや優しさはひ弱さではなく、むしろ強く、気高い行為です。ウルスラでどうぞ本当の意味での「強い人」になってください。

保護者の皆様には、あらためまして入学のお慶びを申し上げます。お子様のこれからの大切な高校時代を本校に託していただきありがとうございます。お子様のこれからの人生と一緒に挑戦していきたいと思えます。教職員一同、「生徒たちのために動くときは、いつもwithの立場、寄り添う、共に歩いていくという立場を大切にしながら、生徒たちが「自立した人間」になれるように同伴していきたいと考えております。どうぞ、本校を信頼していただき、保護者の皆様にもご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、お足元の悪い中、また新年度のご多用な中、ご臨席賜りました来賓

の皆様から心から感謝申し上げます。ありがとうございます。本年度は本校創立60周年という大きな節目の年です。この歴史的な瞬間にここに呼ばれた意味を生徒や教職員と共に深く考えながら、未来への懸け橋となっていきたいと思っております。どうぞ今後とも皆様のご支援、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、ここにご参列の皆様のご健康と多幸をお祈りいたしますとともに、新入生の皆さんが、人知れず咲くあの校庭のスマイルに恥じないように、自分の中に答えがあること信じ、人生を着実に紡いでくれることを心から願い、私の式辞といたします。

平成27年4月10日

聖心ウルスラ学園高等学校 校長 牧野みどり